

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あすなるSTEP		
○保護者評価実施期間	令和8年3月16日	～	令和8年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和8年3月16日	～	令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性やニーズに応じた個別支援の質の高さ	日々の記録や職員間のミーティングを通して情報共有を行い、支援の方向性にズレが生じないよう意識している。また、アセスメントを基に個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行うことで、子どもの成長に応じた支援を継続している。	職員間でのケース検討の機会を増やし、多職種の視点を取り入れることで、より専門性の高い支援につなげていく。また、支援内容の言語化・共有を強化し、支援の質の均一化を図る。
2	保護者との信頼関係と丁寧な情報共有	送迎時のコミュニケーションや連絡帳を活用し、日々の様子を具体的に伝えることを心がけている。また、相談しやすい雰囲気づくりを意識し、保護者の不安や悩みに寄り添った対応を行っている。	定期的な面談や情報提供の機会を計画的に設けることで、より深い共通理解を図る。また、家庭での関わり方についての助言や情報発信を強化していく。
3	活動内容の柔軟性と改善意識の高さ	工夫していることや意識的に行っている取組等 活動プログラムが固定化しないよう、新しい活動を取り入れることを意識している。また、保護者からの意見や子どもの反応を踏まえ、活動内容の見直しを行いながら、多様な経験ができるよう工夫している。	運動活動や課外活動など、体験の幅を広げる取り組みを強化する。また、通所曜日に関わらず様々な活動に参加できる仕組みを整え、多様な経験機会を提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や社会参加の機会が十分とは言えない	日々の支援や安全面への配慮を優先する中で、外部との交流機会の確保が難しい状況がある。また、地域とのつながりを持つ機会の情報収集や調整が十分に行えていない点も要因となっている。	地域の公民館活動や行事への参加機会を計画的に取り入れるとともに、学童クラブや地域団体との連携を検討していく。また、無理のない範囲で段階的に交流機会を増やし、子どもが安心して参加できる環境づくりを行う。
2	保護者交流や家族支援の機会が限定的である	保護者の就労状況や生活スタイルにより、参加しやすい時間帯の設定が難しい。また、交流の場を企画・継続するための体制や時間の確保が十分ではないことが課題となっている。	短時間でも参加しやすい保護者交流の機会や情報共有の場を設けるとともに、オンラインや資料配布など多様な方法での支援提供を検討する。また、年間計画に位置付けることで、継続的に実施できる体制を整える。
3	情報発信や周知の方法にばらつきがある	実施している取り組み(訓練・活動・支援内容等)について、伝達手段が限られており、全ての保護者に均等に届いていない可能性がある。また、職員間でも発信意識に差があることが要因となっている。	通信やSNS、掲示等の発信方法を整理し、情報提供のルールや頻度を統一する。また、訓練実施や活動内容については写真や具体例を用いて発信することで、保護者に分かりやすく伝わる工夫を行う。